

## 単元の目標

○自分の抱いた印象を根拠を示しながら表現する活動を通して、自分の考えを効果的に伝える文章構成と表現方法について理解することができる。

## 単元の流れ

|     |   | ICT       |
|-----|---|-----------|
| 第1次 | 互いの作文を分析し、考えや印象を分かりやすく効果的に伝える文章構成について考える。 | 1時間（本時） * |
| 第2次 | 考えを伝える効果的な表現方法について考える。                    | 1時間 *     |
| 第3次 | 学習を生かして考えを伝える作文を書く。                       | 1時間 *     |
| 第4次 | 言語について理解する。                               | 1時間       |

## 研究テーマとの関連

## 確かな学力を育むために

本単元で育てたい確かな学力は、**思考力、学び方、表現力**である。  
自分の考えや想像したことを読み手に正確に伝えるための観点について、話し合いを通して、表現する力を高めていく。

そのために、身近なポスターを利用する。ポスターの印象と想像したことを200字程度の文章にまとめ、その作品の分析を通して、効果的な表現方法の観点について考えていく。クラスで共有した観点到注意しながら書く活動を2回行う。繰り返し書くことで表現技術の定着を図り、生徒一人一人の表現力を高め、伝え合おうとする意欲を育てていきたい。

## ICT活用の視点から

身近なポスターを見て書いた作文を比較し、気が付いたことを話し合う場面で実物提示装置とKB（Kneading board:創発的分業支援システム）を活用し、互いの気付きを共有させる。視覚的にとらえやすく、他グループの考えが一度に把握できるため、生徒の思考の幅を広げ、集団で追究しようとする態度を育てることが可能である。

単元の最終段階で、はじめに一番印象的な部分を書き、想像したことに広げていく、印象を抱いた根拠として特徴的な点や色をとりあげる、という観点到注意しながら作文を書く。書き上げた作品の鑑賞の際にもICT機器を活用し、生徒から生徒への評価を効果的に活用していく。

## 本時の授業のポイント

生徒が互いの作文を読み合い、効果的に伝えるにはどんな点に気をつければいいのかを話し合う場面で、実物投影機と互いの考えを同時にとらえることが可能なICT機器を活用する。互いの気付きを共有しながら、一人一人が効果的に書くための観点到注意について考えを深めていくことが、本時のポイントである。

## 本時のICT環境



- ◆ ICTを活用する場面 ・意見交換、情報共有
- ◆ 活用するICT機器 ・コンピュータ（8台）・プロジェクタ（1台）  
・電子情報ボード（1台）  
・実物提示装置（2台）
- ◆ 活用するソフト ・KB（Kneading Board:創発的分業支援システム）

## 本時のねらい

互いの作文の分析を通して、自分の感じたことを効果的に伝えるための文章構成について理解することができる。

## 学習の流れ

### 学習課題

抱いた印象を分かりやすく表現してみよう。

#### 1 学習課題をつかむ。

(1) 学習課題を確認する。

(2) ポスターを見て抱いた印象と想像をふくらませたことを作文する。

##### 作文の約束

- ・ 文字情報は取り上げないこと。
- ・ 箇条書きにはしないこと。
- ・ 商品については触れないこと。
- ・ 字数は150字～200字で書くこと。
- ・ 12分で書き上げること。

##### (予想される反応)

- ・ 一番印象的な部分をはじめに書く。
- ・ 目や口など特徴的な部分に目を向ける。
- ・ 服や全体の色を取り上げて書く。
- ・ 想像したことを最後に書く。

(3) 代表作品の音読を聞き、どのポスターで書いたのか、その理由は何かを発表し合う。



#### 2 グループの作品を分析し、分かりやすく書くための文章構成について考える。

(1) 書いている内容の順序とその理由について話し合う。

##### (予想される反応)

- ・ はじめに目や口についての記述が多い。
- ・ 印象的な部分をはじめに書いている。
- ・ 最後に想像の部分を書いている。
- ・ 印象を先にしないと想像した理由が分からないから。

(2) 話し合ったことをまとめる。

- ・ はじめに印象的な部分を書く。
- ・ 次に全体像を書く。
- ・ 最後に想像したことを書く。



#### 3 話し合った観点到に気をつけながら、もう一度作文を書く。

・ 生徒の関心を高めるために、学習課題を伝えた後でポスターを掲示する。

・ 150字～200字が意識できるように、罫線を強調した原稿用紙を用意しておく。

・ 一番のお気に入りのポスターを決めて書くが、どのポスターを選んだのかは伏せておくことを確認する。

・ 書き進めることが難しい生徒に対しては、ポスターを選んだ理由は何かを問いかけそこから書くように助言する。

・ 字数で悩んでいる生徒には、表現への意欲を持続させるために、100字程度でよいことを伝える。

★表現のどの部分からこのポスターと断定したのかが全員で共有できるように実物投影機を活用する。

・ 話し合いの観点を絞るために、文章構成について考えることを確認する。

★話し合いの場面で、互いの気付きを共有するために「KB」（創発的分業支援システム）を活用し、思考力を高める手立てとする。

◎はじめに取り上げられている事柄と理由を自分たちの言葉で書いている。  
(話し合い・KB)

○目や口という部分を表記している場合は、どうしてはじめに記述したのかを問いかける。

・ 「KB」の画面と実物投影機の双方を活用して、生徒の発表の根拠を明確に提示できるようにしておく。

・ 最後に次時の予告として、話し合いで生徒が指摘すると予想される「色にはどんな効果があるのか」を取り上げることを伝える。

・ は指導上の留意点

★はICT機器活用の留意点

○は個への対応

◎は評価